

富山県 五箇連

2022 看護職員 労働実態調査

2023
6
NO5

発行：富山県医労連書記局 〒931-8313 富山市豊田町1-1-70 アパートメント秋202
TEL : 076 - 456 - 2360 FAX : 076 - 456 - 5468 Email toyamakeniroren@dream.ocn.ne.jp

コロナ禍でうきぼり

いのちと健康まもる看護師定着のための増員と処遇改善を



- 1 労働実態夜勤実態の調査を行うこと
- 2 県の看護職員の需給推計は、
看護師の労働実態をふまえ見直し
を行うこと
- 3 すべての看護職員を対象とした処遇
改善を行うよう国に働きかけること

も多くの看護師が足りていなかつた。県では少しでも再就職者が復帰できるよう支援策として予算もつけてきた。現在新川地域の病院で、勤務環境改善のモデル事業として取り組んでいる。新卒看護師のみだが、民間含めた全体の離職率の把握をしている。また昨年の処遇改善に関する診療報酬臨時改定で4割の看護師しか対象とならなかつたことは承知している。対象を広げ、全体を底上げする必要はあると認識していく、全医療従事者の賃金引上げは、県から国へ重点要望として出す予定。

患者さんへ寄り添い
たくとも、仕事量が
多く絶望し辞めていく
看護師も少なくない

現場から
の報告

厚生部医務課へ

3項目要請

医務課医師看護職員確
保対策班長の松原氏ら4
人が対応しました。

県医労連では、P2の
調査結果を説明し、現場
の実態を報告。県に左記
の3点を要請しました。

富山県医労連は、6月
12日4人が県庁を訪
れた。昨年行つた県内881人
の看護職員労働実態調査
結果を基に、記者会見と
県要請を行いました。

富山県医労連は、6月12日4人が県庁を訪れ、昨年行つた県内881人との看護職員労働実態調査結果を基に、記者会見と県要請を行いました。

で認知機能が低下している患者さんが年々増えていて、1人1人の患者さんに必要な看護の時間が増えている。夜勤では、認知症によるせん妄状態のある患者さんが多く、少ない看護師ではやれな集しても集まらない。こういう風な看護をしたいと理想をもつて看護師となつたのに、仕事量が多く、「もう一つ患者さんに声をかけ、て関わつてあげたい、患者さんの身なりを整えてあげたい」と思つてもできなくなつてしまっている。やりがいと絶望感で現場をはなれたといふ看護師が増えているのではないかと思う。若い看護師が入ってきて、賃金が低く

別の仕事に変わつてしまつたり、結婚出産を機にやめると過酷な現場に再就職をためらう人が多い。若い看護師をなかなか育てられないというジレンマもある。国の処遇改善策は小規模病院や在宅で働く6割の看護師は対象とならず。まるで苦労が認められていらないのではないかと悲しい気持ちにならってしまう。国に働きかけてすべての看護師の処遇改善を行つてほしい。



上は Yahoo ニュース
TV局3社(BBT・KNB・チューリップ) 新聞社 5 社が取材

やりがい感じるのに・・・

仕事を辞めたい 8 割

仕事を辞めたいと思うか



理由(3つ迄選択)

- | | |
|----------------|-------|
| ① 人手不足で仕事がきつい | 57.1% |
| ② 賃金が安い | 46.3% |
| ③ 思うように休暇が取れない | 36.6% |
| ④ 夜勤がつらい | 23.3% |

【富山県医労連調査結果の概要】

本調査では、慢性的な人手不足と過酷な夜勤実態が改めて浮き彫りになった。

1) 一年前と比べた仕事量の変化—「増えた」が 63.5%

一年前と比べた仕事量は、「大幅に増えた」が 26.4%、「若干増えた」37.1%と合わせ「増えた」のは 63.5%であった。2017 年調査と比較すると、4.7 ポイント増加していた。

2) 時間外労働では、日勤の 35%が 始業時間「前」30 分以上の労働をしている。終業時間「後」労働 60 分以上は 40.3%

3) 休憩時間は、きちんととれているは、日勤で 20.3% 準夜で 6.7% 深夜で 9.6% 2 交替で 2.8% で、8 割から 9 割が法で定められた休憩時間の取得ができていない。

4) 最近の自覚症状

「全身だるい」51.3% 「腰痛」41.8% 「いつも眠い」34.5% 「目が疲れる」39.5% 「頭痛」42.0% 「憂鬱な気分がする」29.4%

5) 健康不安 71.5%

「健康に不安」56.5% と「大変不安」11.5% と「病気がちで健康とはいえない」3.5% の合計でみると、71.5% が「健康不安」を抱えている。

6) 慢性疲労 80.1%

「休日でも回復せず、いつも疲れている」29.9% と「疲れが翌日に残ることが多い」50.2% の合計でみると、80.1% が「慢性疲労」を抱えながら働いている。慢性疲労が疾病に移行する前にきちんと休息がとれるような対策が急がれる。

7) 強い不満、悩み、ストレス あるが 67.2%

仕事での「強い不満、悩み、ストレス」の有無では、「ある」が 67.2%。その要因は、「仕事の量」が 46.8% と最も多く、「仕事の質」が 32.8% と続いた。

8) 仕事の達成感

十分な看護が「できている」2.0% と「大体できている」25.5% に留まっている。十分な看護ができない主な理由は「人員が少なく業務が過密」89.6% と圧倒的に多かった。

9) 仕事を辞めたい 79.9%

やりがいを感じるが 74.1% であるのに、仕事を辞めたいと「いつも思う」27.7% と「ときどき思う」52.2% の合計が 79.9% である。辞めたい主な理由では、多い順に「人手不足で仕事がきつい」57.1% 「賃金が安い」46.3% 「思うように休暇が取れない」36.6% で、「夜勤がつらい」「思うような看護ができず仕事の達成感がない」などと続いた。

10) 妊娠時の状況 「順調」と回答したのは 20.7% しかいなかった。

妊娠時の状況(該当したもの全て)で「順調」と回答したのは 20.7% しかいなかった。「つわりがひどい」が 52.4% と最も多く、「貧血」28.0%、「切迫流(早)産」24.4%、「むくみ」22.0% 「早産」11.0% 「妊娠高血圧症」11.0% 「出血」9.8%、「たんぱく尿」8.5% 「流産」は 4.9%、「死産」は 2.4% であった。

妊娠時にうけた母性保護の支援措置では、「夜勤・当直免除」が 52% と、半分近くが夜勤免除されていない。